## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

	<u>公表</u>	<u>長:令和 4年 3月23日</u>			事業所名		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関 係で適切である	25%	75%	外出の機会を多くしたり など活動の幅を広げて いる。	スペースをより広く使えるために物の配置を変えたりしていま す。	
	2	職員の配置数は適切である	75%	25%	利用数によって職員配 置を変えたりしていま す。		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	25%	75%	出入口の段差にスロー プ設置はするも公共部 分になるため多少問題 があり。	車いすが通る時だけスロープを置き、迷惑にならないよう配慮しています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	13%	職員会議にて気付きメ モ等で改善策を検討し たりしている。		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%	職員会議等で保護者の 方のアンケート結果を検 討し、業務改善に努め ています。		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	100%	0%	法人のHPにて公表して います。		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	60%	40%		第三者による外部評価は行えていない状態です。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	75%	13%	定期的に内部研修、オ ンライン研修などを行っ ています。		
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	職員間で話し合い、意見を出し合って作成しています。		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	83%	17%	個人懇談を行わせてい ただき、課題分析してい ます。		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%		月間の活動プログラムを担当職員が原案を作成し、他職員 が確認し新たな案を入れ完成させています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	100%	0%	季節によってのイベント もプログラムに入れたり しています。		
適切	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	88%	13%	利用時間の長さに応じ てプログラムを考えてい ます。		
の女援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%	個々の障害特性等を配 慮しながらサービス計 画を作成しています。		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	88%	13%	毎朝ミーティングを行い、1日の流れ、役割を確認しています。		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	100%	0%	支援終了後必ずミーティングを行い、1日の振り返りを行っています。		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	項目を細かく分けて 日々の記録をしていま す。		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断して いる	100%	0%	定期的に行っています。	会議などで話し合いを行い、より細かく計画を振り返り見直し をしていっています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	86%	14%	個々の状態、障害特性 を考慮しながら支援を 行っています。		
				•			

20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	83%	17%	児発管が中心となり、連 絡を取り合っています。	
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	先生や保護者の方から 確認したり、HPから情報 を得たりしています。	
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	71%	29%	保護者を通じての連絡 体制となっています。	
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	88%	13%	保育所等へ見学へ行ったり、情報共有をしたり している。	
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している	67%	33%	卒業後の通所事業所等 へ支援内容等の情報を お伝えしています。	卒業後に通われる通所事業所へ支援内容の情報提供をして います。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研 修を受けている	57%	43%	見学へ行かせてもらっ たりしています。	
		13%	88%		現在コロナ禍で交流は難しい状況ですが、今後交流する機会 があれば積極的に参加していきたい。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	86%	14%	参加させていただいて います。	
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳、送迎時、電話 等で随時連絡を取り 合っています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	83%	17%	ペアレントトレーニング は現在行っていません。	必要と感じた児童に対しては検討していけたらと思います。
	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明させてい ただいています。	
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っ ている	100%	0%	相談を受けた際は電話 や直接話させていただ いたりしています。	
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	14%	86%		現在コロナ禍で保護者会などは実施していませんが今後検 討していきたいと思います。
	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	100%	0%	苦情窓口の職員を配置 し、対応しています。	
34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	100%	0%	第2わととニュースという会報を毎月発行して 保護者の方へお配りしています。	
35	個人情報に十分注意している	100%	0%	十分注意して行ってい ます。	
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	連絡ノートを毎利用ごと に活用しています。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		現在行事に地域の方を招待することはできていないので、コ ロナが収束してくれば検討していきたいと思います。
	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36	20 会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している  21 解析 との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡制を適切に行っている  22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている  23 定言を制度、と相互理解に努めている  24 対応の主治を等と連絡体制を整えている  25 対応を卒業し、放課後等デイサービス事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている  26 がよっから障害福祉サービス事業の容等の情報を提供する等している  27 に変発さりました。  28 に対している  29 技術とのなが、障がいのない子どもの状況に発課題について共通を受けている  28 に、子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの状況や辞課題について共通を持っている  29 技術と持っている  29 技術を持っている  30 に対してペアレント・トレーニング等の接着に対してペアレント・トレーニング等のな技術を対応がある。  27 に対している  28 に、子どもの状況の特課題について共適を持っている  29 技術を持っている  30 に、子どもの状況の特課題について共適を持っている  29 技術を持っている  30 に、子どものの向上を図る観点から、保護者の対している。  29 技術を行っている  30 に、子音で表別により、保護者と伝えのは対応を表別にで、必要な助言と支援を行っている  31 談ににるのより、保護者の方とともに、子どもや保護者の方とともに、子どもや保護者からの苦情について、対応者に周知に、苦情があった場合に迅速からに周知知にといる  35 に関係を発行し、活動概要や行事者に対して発信している  36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報に達力とともないの意思の疎通や情報に達力といる  37 に対して発信している  38 に関がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報に達力とともないの記慮をしている  39 に対域に足足が表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している    学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時ウ対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている   医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている   学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所がら障害福祉サービス事業所がら帰き不むでの支援内容等の情報を提供する等している   児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている   児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている   児童発達支援を対かる   13%	20 会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している  21 会議にその子どもの下校時刻の確認等)、連絡影を適切に行っている  22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている  23 定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている  24 対応のない子どもとでの支援内容等の情報を提供する等している  25 使発達を卒業し、放課後等デイサービス事業所等・8年で提供する等している  26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある  27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している。  28 以来がともと活動する機会がある  27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している。  28 以来がともの発達の等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている  29 接着に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている  30 連絡を発信でいる。  31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている  32 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている  34 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている  35 保護者からの子育でが悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている  36 に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている  37 実践の内容、利用者負担等について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者により、保護者言士の連携を支援している  36 に対して発信している  37 実際がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をとや保護者との意思の疎通や情報を子どもや保護者との意思の疎通では対して発信している  36 に対して発信している  37 事業所の行事に地域住民を招待する等地  08 100% 08 100% 08 100% 08 100% 100% 08 100% 100%	20 会請にその子どもの状況に精通した最もふ 83% 17% 競を取り合っています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	86%	14%	マニュアル策定してファ イリングしています。	十分に周知徹底しているとはいえない為、今後しっかりと周 知徹底できるよう工夫していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救 出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	火災時や土砂災害時に 備えての避難訓練を定 期的に行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	定期的に虐待研修を 行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	63%	38%	身体拘束について説明 した上で同意書を頂い ています。やむを得ない 場面について必要最小 限の身体拘束を行う場 合があることを支援計 画に記載し、行った場合 記録に残しています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%	面接時保護者の方から 確認を取っています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共 有している	100%	0%	ヒヤリハット報告書を作成し、日々のミーティング、会議等で共有しています。	